

## 国際園芸アカデミー開学から現在までの変遷と改革の検証

年	変遷	背景となる動き	検証
H13.5	岐阜県園芸学校（仮称）構想検討委員会設置	H12 【業界の動き】 ・花づくりはもとより「 <u>海外と直結した情報・交流の拡大</u> 」「 <u>関連分野の裾野の拡大</u> 」「 <u>次代の産業を担う優秀な人材への要望の高まり</u> 」と人材育成の機運が高まる。	・世界に通用するプロダクトデザイナー（上級）、花と緑の産業発展に寄与するマイスター（マイスター科）を育成する学校を設立
H14.8	開学準備委員会設置	・開学に向け、施設整備、教育課程、教員組織の編成、学校運営等について審議・決定する。	
H16.4	岐阜県立国際園芸アカデミー開学 大川学長就任（初代）		
H20.4	マイスター科修了授業時数削減 2400→2100 時間	H19 【学内協議】 ・授業時間の空き時間がなく学生の自主的な学習意欲を向上させるため	
H22.4	上田学長就任（2代）		
H23.4	上級マイスター科募集停止	H19 【包括外部監査の指摘事項】 ・県財政が厳しい中、現状を踏まえた運営方針の見直しが必要。3年程度の期間を設定して成果が出なければ存続について検討	<p>・<u>上級マイスター科の花と緑の産業界からの必要性は乏しく見直し→廃止へ</u></p> <p>・マイスター科は今まで以上に県内業界との連携を深め実践的な授業内容へ改善 →カリキュラムの見直し:インターンシップの充実等</p> <p>・アカデミーの基本方針の見直し →世界に通用する人材から県の産業に貢献する人材の育成へ</p>
		H20.12 【県農政部】 ○同アカデミーの抜本の見直し「事業効果の向上に向けた見直し方策の検討」 主な課題：上級マイスター科の恒常的な定員割れ、県内就業率の低さ →検討委員会を設置し議論へ	
		H21.3 【岐阜県行財政改革指針】 ・同アカデミーが「 <u>抜本的に見直す</u> 」施設として整理	
		H21.4 【国際園芸アカデミー検討委員会による報告書】 ・修了年限を4年から2年にする等新たな上級マイスター科、マイスター科見直し等を提案	
		H21.6 【業界関係者からの見直しに関する主な意見】 ・県内業界にどのように貢献したかが問われている等、廃止への反対意見は無し	
		H22.2 【岐阜県行財政改革アクションプラン】 ・H23年度から上級マイスター科の新規学生募集の停止を明記	
		H22.2 【基本方針の見直し】 ○国際園芸アカデミーの見直しの方向性 ・県立の学校のため役割は地元産業の活性化 ・ <u>基本方針の変更</u> 「 <u>世界に通用する学校</u> 」「 <u>産業の発展に寄与する学校</u> 」「 <u>岐阜県独自の学校</u> 」 → <u>＜新たな基本方針＞「岐阜県の花と緑の産業に寄与する学校」</u> ① <u>花と緑の実践技術を習得した実務者を育成する学校</u> ② <u>花と緑の産業と連携した実践重視の学校</u>	
H23.2【運営計画策定】（5年間） ・上級マイスター科廃止や新たな基本方針等を受け、業界ニーズに応える人材の育成を実践する計画が必要として策定 ・県内農業高校との連携 ・産業界への貢献（県内就業率） ・財政的な改善			
H25.3	上級マイスター科廃止	・上級マイスター科について恒常的な定員割れ、県内業界ニーズが少ない等の理由でH24年度末廃止	
H30.2	職業実践専門課程（園芸系専門課程）として文部科学省より認定	H28～ 【学内協議】 ・花と緑の業界の意見を踏まえて教育課程を編成すること等を明確にする必要があるため、認定に向け体制整備	・実践的な職業教育の水準の維持向上につながる
H30.4	今西学長就任（現学長） 花フェスタ記念公園実習フィールド設置	H28～29 【花フェスタ記念公園】 ・見直しの一環として年間を通じて実践的な花の植栽等を学ぶ専用エリアを検討	・実践的な授業として活用
		H30.5 【 <u>県立農林系アカデミー・農業大学校運営向上検討会</u> 】＜年度内に3回開催＞ ・直面する少子高齢化等社会情勢やニーズの変化等の共通課題に対し、森林文化アカデミー、国際園芸アカデミー、農業大学校の3校が機動的に対応できる教育機関となるため意見交換を実施。	・現状と課題を明確化し改善策を検討してプランを策定
		H31.3 【 <u>県立農林系アカデミー・農業大学校運営向上プラン策定</u> 】	・プランを実践中(目標年度 R5)
H31.4	マイスター科修了授業時数削減 2100→1800 時間	【学内協議】 ・より学生の自主的な学習意欲の向上、教員の資質等向上させるため授業時数を削減	
R1.9	国際園芸アカデミー有識者会議設置	・時代の変革に機動的に対応できる人材育成機関となるべく、基本構想策定に向けて議論が必要	・3校の運営向上プランより園芸アカデミー個別の議論を実施